

# KOMAZAWA UNIV.

昨年は流経大、筑波大に次ぐ3位でリーグ戦を終えた駒大。その後のインカレで見事に有終の美で締めくくった。そして、今年も「三冠」を目標に迎えた今季は5年ぶりに開幕戦を白星でスタート。2、3節ではつまづいたものの、引き分けを挟み4連勝で一気に順位を上げる。最終戦では筑波大の敗戦という結果で駒大が前期首位を手にした。

99年以来的の開幕戦白星で好スタート

「内容よりも勝ったことが一番よかった」試合後、多くの選手が語った言葉だ。開幕戦の今季から1部に昇格した明大。試合は駒大が序盤から攻勢に進め、3-0と快勝した。しかし、後半は明大にカウンターを許し、ピン手を招いた。廣井は「相手が外してくれ」と守備の課題の目を向けた選手たちは試合内容には満足していなかった。

2節の法大戦。初戦の勢いで連勝といきたいところだったが、2部王者相手に駒大サツカは完全に封じ込まれた。前半1分に先制点を許すと、その勢いそのまま法大に押し込まれ、2分にも得点を許した。対する駒大は後半に入ると法大の守備陣2、3人に囲まれ、簡単にボールを失ってしまう展開が続いた結果、駒大のやりたいサッカーをそのままやられるという屈辱的な敗戦となってしまう。



6節・亜大戦 駒大は攻め込むもフィニッシュまで持ち込めない展開が続くが、79分の巻が決勝点を奪った

「徹底してやらないと足元をすくわれてしまう」と日大戦後の牧野が語った言葉が現実となってしまった東学大戦。宮崎のロングシュートで先制したが39分、守備陣の連携ミスから失点。後半に入り、東学大が一人退場し数的有利になるも、守りを固める東学大のカウンターからまさかの逆転ゴールを許してしまい2敗目を喫した。

## 気の緩み緩みからの逆転負け

「徹底してやらないと足元をすくわれてしまう」と日大戦後の牧野が語った言葉が現実となってしまった東学大戦。宮崎のロングシュートで先制したが39分、守備陣の連携ミスから失点。後半に入り、東学大が一人退場し数的有利になるも、守りを固める東学大のカウンターからまさかの逆転ゴールを許してしまい2敗目を喫した。



2節・法大戦 今季2部から昇格したばかりの法大に駒大のサッカーは完璧に抑えられた

果になってしまった。いろいろな面で情けないけど、最後までそういうところが出てきてしまう」と怒りをあらわにした。最も重要なのは「闘わない選手がいた」という秋田監督のコメントだった。

## 課題は残るも4連勝で2位浮上

前節までの2試合では駒大の武器である「前線からのプレス」が完全に沈黙していたが、時間をともにチームの調子が徐々にではあるが戻ってきた。4節では流経大を相手に7分の原のゴールを皮切りに4得点で圧勝した。5節の東農大戦、6節・亜大戦も完勝するも選手からは「チーム的にもプレスが出来てなかった」（新川）、「セカンドボールが拾えなかったし、運動量も少なかった」（小林竜）など不完全燃焼の声が聞こえてきた。

# 前期リーグ戦ハイライト

